

については常勤医師1名のほかに非常勤医師を適切に配置することにより適正な研修指導体制が一応確保されていると認められる場合は暫定的に条件を満たしているものとする。

(3) 麻酔科及び検査科については、臨床研修を行ううえで重視すべきものであるため、これらの科についても専任医師が配置されることが望ましい。基準において剖検例及び剖検率を規定しているが、臨床研修を行ううえで解剖が欠くことのできない重要な役割を果たしていることにかんがみ、専任の病理解剖医を配置することが望ましい。

2. 指導の資格

基準6において各診療科毎に十分な指導力を有する指導医を置くことを規定しているが、指導医の資格は原則として次のいずれかの条件に該当するものであること。

(1) 少なくとも10年前後の臨床経験を有し、十分な指導力と最近の2年間においても相応の業績発表を有するもの。

(2) 各専門学会が認定している認定医等の資格を有するもの。

(3) 特定科（皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科）については少なくとも5年の臨床経験を有し、かつ、その経験、訓練、業績発表等から十分な指導力があると認められるもの。

3. 設備

(1) 基準10において、研究、研修に必要な図書、雑誌の整備が行われていることとしているが、その内容は、内外の専門図書及び雑誌を有し、かつ、図書費として少なくとも年額200万円以上計上されていること。又、十分な図書、雑誌の活用をはかるためには、専任の職員を置くことが望ましい。

(2) 十分な病歴管理が行われるためには、中央病歴管理室が設置され、組織的な病歴管理が行われていること、及び専任の病歴管理者がいることが望ましい。

(3) 研修医の宿舎の設置に関する規定はないが充実した臨床研修をはかるためには宿舎の整備が望ましい。

4. 研修内容

(1) 研修医手帳に研修内容を記入させ、病歴や手術の要約等を作成するよう指導すること。

(2) 教育責任者は、研修医について研修内容の記録及び評価を残すこと。

(3) 研修方法については、昭和48年12月の医師研修審議会の建議の証旨に則り、救急医療、初期診療等プライマリケアの研修が行われるよう関連各科にわたるローテーション方式による研修を行うことが望ましい。

資料 6

卒後初年度臨床研修目標案

日本医学教育学会・卒後臨床教育委員会

日野原重明	福岡 誠之	林 茂
今村 栄一	岩淵 勉	牧野 永城
織畑 秀夫	鈴木 淳一	込沢 寧
植村 研一	牛場 大藏	

はじめに

先に昭和51年4月日本医学教育学会卒後臨床教育委員会が公表した卒後基礎的臨床研修目標案（医学教育，7；128，1977）は有意義で多大の評価を得ており、その価値はいささかも減じてはいない。しかし卒後2年間では到達できても、1年以内では無理と考えられる項目もあり、一般教育病院においては、2年間をすべてローテーションで費すことはできない場合もある。

また卒後1年間の到達レベルを設定しておくこと、2年目は前記研修目標案に照らして、不備な点を補足進展させれば十分となるし、少なくとも初年度の目標設定によりその時点の評価も容易となる。

厚生省の卒後研修は、ひとまず初期診療*ができ、必要に応じて専門医に紹介することのできる医師の養成を求めている。これが広く国民に期待されているものであれば、卒後1年で最初に到達しておくべき最低線を設定することは大きな意味をもつものとする。このような認識に基づいて卒後初年度臨床研修目標の設定を試みた本案は同時にチェックリストとしての効用も兼ねている。

〔1〕趣旨

すべての臨床医にとって必要な初期診療の基本的診療に関する知識、技能の1年間に習得すべきレベルを設定し、医師に必要な基本的態度を養う。

〔2〕一般初年度臨床研修目標

(1) すべての臨床医に求められる初期診療の基本的臨床能力を身につける。

1. バイタルサインを正しく把握し、生命維持に必要な初期の処置を的確に行うことができる。

2. 初期診療に必要な最少限の情報収集ができ、迅速に検査、治療計画をたて、指示し、かつ実施する。

(2) 患者を身体的だけでなく、心理的・社会的の面も併せて全人的にとらえ、患者および家族との正しい人間

* 初期診療はプライマリ・ケアの一部、すなわち患者とのはじめての接触にさいして必要な診療を意味する。

関係を確立する態度を身につける。

(3) チーム医療のうえで他の医師および医療メンバーと協調する習慣を身につける。

(4) 他科あるいは上級医に委ねるべき問題があれば、必要な記録を添えて転送する時機を判断する能力を養う。

(5) 慢性疾患の健康管理上の要点を把握し、社会復帰の基本計画が立案できる。

(6) 末期患者の管理と死後の法的処置を適切に行う。

(7) すべての情報、診療内容を正しく記録する習慣を身につける。

[3] 初期医療の基本的知識・技能

a. 診察法

一般目標 (GIO)

卒前に修得した面接法と診察法をさらに発展させ、初期診療に必要な基本的診察法を身につける。

行動目標 (SBO)

	yes	no
1. 全身の診察を正確、かつ要領よく行える	—	—
2. 眼底の重大な所見を記述できる	—	—
3. 外耳道、鼓膜、鼻腔、咽頭、喉頭の異常を記述することができる	—	—
4. 直腸診で大きな異常をみつけられる	—	—
5. 男・女性器の異常を指摘できる	—	—
6. 妊娠の初期徴候を把握できる	—	—
7. 皮膚の所見を記述できる	—	—
8. 骨折、脱臼、捻挫の診断ができる	—	—

b. 基本的臨床検査法

GIO

基本的な臨床検査法を選択、結果を解釈でき、緊急検査を実施できるようになる。

SBO

1. 尿の肉眼的、化学的、顕微鏡的検査を行い、結果の意義を解釈できる	—	—
2. 便の肉眼的検査と潜血反応を実施し、解釈することができる	—	—
3. 血液一般検査と白血球百分率検査を実施し、異常な細胞については指導医に相談する	—	—
4. 出血時間の測定を行い、血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を解釈できる。結果を判定し、止血機構に関する検査を指示できる	—	—
5. 血中尿素と血糖の簡易検査を実施し、解釈することができる	—	—
6. 血清生化学的検査を適切に指示し、その結果を解釈できる	—	—
7. 血液ガス分析を行い結果を解釈できる	—	—
8. 血清免疫学的検査を適切に指示し、重要な異常を指摘できる	—	—
9. 内分泌学的検査を適切に指示し、その結果を解釈できる	—	—
10. 細菌塗抹、培養および薬剤感受性試験の結果を解釈することができる	—	—
11. 腰椎穿刺を行い、髄液検査を指示し、結果を解釈することができる	—	—
12. 心電図をとり、その主要変化を解釈することができる	—	—
13. 肺機能検査の指示を行い、主要な変化を指摘できる	—	—
14. 脳波上の主要な異常波を指摘できる	—	—
15. 腎機能検査の主なものを指示し、成績を解釈できる	—	—
16. 超音波検査の指示を行い、主要な変化を指摘できる	—	—

c. X線検査法

GIO

基本的なX線検査法を指示し、読影力を身につける。

SBO	yes	no
1. X線障害の予防を配慮して胸部・腹部・頭蓋・脊椎・四肢骨の単純X線写真を指示し，結果を指導医と連絡する	—	—
2. 消化管・肺・脳・腎の造影法（血管撮影を含む）によるX線像の主な異常を指摘できる	—	—
3. 頭部・頸部・体幹の CT スキャン像の主要変化を指摘できる	—	—
d. 核医学検査法		
GIO		
基本的な核医学的検査法を指示し，その結果を分析する能力を身につける。		
SBO		
1. 繁用される核物質を列挙することができる	—	—
2. 各種核医学検査の適応を述べ，指示できる	—	—
3. 各種核医学画像の大きな変化を指摘し，分析できる	—	—
e. 滅菌・消毒法		
GIO		
無菌的処置のさいに必要な各種の滅菌，消毒法についての知識と技能を身につける。		
SBO		
1. 手術・観血的検査・創傷の治療などの無菌的処置のさいに用いる器具や諸材料の滅菌法を述べることができる	—	—
2. 滅菌手術着や手袋の着用ができ，手指を適切に消毒することができる	—	—
3. 手術野の術前の清拭や剃毛の指示と確認および消毒を行うことができる	—	—
f. 採血法		
GIO		
臨床検査および輸血のための血液を採取する技能を身につける。		
SBO		
1. 目的とする臨床検査の種類に応じて注射器や容器の準備を指示し，確認できる	—	—
2. 臨床検査に必要な採血量をあらかじめ定めることができる	—	—
3. 静脈血を正しく採血できる	—	—
4. 動脈血を正しく採血できる	—	—
5. 採取した血液の検査前の処理を適切に行うことができる	—	—
6. 供血用血液を採取するさいの諸注意を守り，正しく採取できる	—	—
g. 注射法		
GIO		
各注射法の適応についての知識と，正しい注射法の技術を身につける。		
SBO		
1. 注射によって起こりうる障害を列記し，その予防策と治療法を講じることができる	—	—
2. 注射部位を正しく選択できる	—	—
3. 皮下，皮内，筋，静脈，動脈等各注射法の特徴と危険を確認して実施できる	—	—
h. 輸血・輸液法		
GIO		
輸血・輸液の基本的知識と手技を身につける。		
SBO		
1. 輸血の種類と適応を述べることができ，輸血を正しく実施できる	—	—

	yes	no
2. 血液型検査の指示と解釈が適切にでき、クロスマッチを正確に実施し、判断できる	—	—
3. 輸血量と速度を決定できる	—	—
4. 輸血による副作用と事故を列挙でき、その予防・診断・治療法を実施できる	—	—
5. 輸液を正しく実施できる。すなわち水・電解質代謝の基本理論、輸液の種類と適応をあげ、輸液する薬液とその量を決定できる	—	—
6. 輸液によって起こりうる障害をあげ、その予防・診断・治療ができる。	—	—
i. 穿刺法		
GIO		
診断または治療上必要な体腔などの穿刺法についての正しい知識と技能を身につける。		
SBO		
1. 腰椎、胸腔、腹腔、骨髄の各穿刺法の目的、適応、禁忌、実施方法、使用器具、実施上の注意、起こりうる障害とその処置について説明ができ、実施できる	—	—
2. 内圧測定、採液、排液、脱気、薬剤注入など各目的に応じて適切な器具と方法を選択できる	—	—
3. 採取した液についての適切な検査を指示し、その成績を解釈できる	—	—
4. 薬剤注入の適応を正しく判断できる	—	—
j. 導尿法		
GIO		
確実な導尿ができる知識と技能を身につける。		
SBO		
1. 導尿に関連する障害を列挙し、その予防策を講じることができる	—	—
2. 持続的導尿の管理ができ、中止する条件を述べることができる	—	—
3. 膀胱穿刺の必要な条件と実施方法を述べることができる	—	—
k. 処方		
GIO		
一般的な薬剤についての知識と処方の仕方を身につける。		
SBO		
1. 一般的経口および注射薬剤の適応、禁忌、使用量、副作用、配合禁忌、使用上の注意をあげ、処方できる	—	—
2. 薬物療法の成果を評価することができる	—	—
3. 麻薬の取り扱い上の注意を述べ、正しく処方し、適切に処理できる	—	—
1. 簡単な局所麻酔と外科手技		
GIO		
簡単な基本的局所麻酔と外科手技を身につける。		
SBO		
1. 繁用される外科器具（メス、剪刀、鉗子、鉤、縫合針、縫合糸など）の操作ができる	—	—
2. 上記の外科器具を適切に選択できる	—	—
3. 局所浸潤麻酔とその副作用に対する処置が行える	—	—
4. 簡単な創面の止血（圧迫、圧搾、結紮、縫合）が行える	—	—
5. 単純な皮下膿瘍の切開や排膿ができる	—	—

m. 術前術後の管理

GIO

手術前の患者の基礎的管理能力を身につける。

SBO

	yes	no
1. 手術の適応に必要な既往歴の問診を行い、術前の検査を指示し、結果を判断できる	—	—
2. 手術予定患者の不安に心理的配慮を行い、術前の処置を指示できる	—	—
3. 術後起こりうる合併症および異常に対して基礎的な対処ができる	—	—

n. 救急対処法

GIO

救急に対するために急性諸症の諸原因を再認識し、与えられた状況下でもっとも適切な処置を講じる能力を身につける。

SBO

1. バイタルサイン（意識、体温、呼吸、循環動態、尿量など）のチェックができる	—	—
2. 発症前後の状況の把握は本人だけでなく、家族、同僚、付添人などからも十分に収集することができる	—	—
3. 人工呼吸（用手、ロー口、アンビュー）および胸骨圧迫式心マッサージができる	—	—
4. 静脈の確保ができる	—	—
5. 気管内挿管ができる	—	—
6. 気管切開の適応を述べることができる	—	—
7. レスピレータを装着し、調節できる	—	—
8. 直流除細動の適応をあげ、実施できる	—	—
9. 必要な薬剤（速効性強心薬、利尿薬など）を適切に使用できる	—	—
10. 大量出血の一般的対策を講じることができる	—	—
11. 創傷の基本的処置（止血、感染防止、副木など）がとれる	—	—
12. 中心静脈圧の測定ができる	—	—
13. 初期治療を継続しながら適切な専門医に連絡する状況判断ができる	—	—
14. 重症患者の転送に当たって、主要な注意を指示できる	—	—
15. 採血して血液ガス分析を行い、結果を解釈できる	—	—
16. 緊急手術を要する場合、術前の最少限の検査および処置を行い、専門の医師に転送できる	—	—

o. 末期患者の管理

GIO

全人間的観点から末期患者の適切な医学的管理を行う能力を身につける。

SBO

1. 末期患者の病態生理と心理的状态とその変化を述べるができる	—	—
2. 末期患者の治療を身体的だけでなく、心理的、社会的な理解のうえに立て行える	—	—
3. 末期患者とその家族の間の社会的関係を理解し、それに対して配慮できる	—	—
4. 死後の法的処置を確実に実行する	—	—

[4] 小児に関する初年度臨床研修目標

a. 面接、指導

GIO

小児ことに乳幼児への接触，親（保護者）から診断に必要な情報を的確に聴取する方法および指導法を身につける。

SBO	yes	no
1. 小児ことに乳幼児に不安を与えないように接することができる	—	—
2. 親（保護者）から，発病の状況，心配となる症状，患児の生育歴，既往歴，予防接種などを要領よく聴取できる	—	—
3. 親（保護者）に対して，指導医とともに適切な病状を説明し，療養の指導ができる		

b. 診察

GIO

小児に必要な症状と所見を正しくとらえ，理解するための基本的知識を修得し，症状ことに伝染性疾患の主症状および緊急処置に対処できる能力を身につける。

SBO

1. 小児の正常な身体発育，精神発達，生活状況を理解し判断できる	—	—
2. 小児の年齢差による特徴を理解できる	—	—
3. 視診により，顔貌と栄養状態を判断し，発疹，咳，呼吸困難，チアノーゼ，脱水症の有無を確認できる	—	—
4. 乳幼児の咽頭の視診ができる	—	—
5. 発疹のある患者では，発疹の所見を述べることができ，日常遭遇することの多い疾患（麻疹，風疹，突発性発疹症，猩紅熱など）の鑑別を説明できる	—	—
6. 下痢患児では，便の性状（粘液，血液，膿等）を説明できる	—	—
7. 嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見を説明できる	—	—
8. 咳をする患児では，咳の出かたと呼吸困難の有無を説明できる	—	—
9. 痙攣や意識障害のある患児では，髄膜刺激症状を調べることができる	—	—

c. 手技

GIO

小児ことに乳幼児の検査および治療の基本的な知識と手技を身につける。

SBO

1. 単独または指導者のもとで採血ができる	—	—
2. 皮下注射ができる	—	—
3. 指導者のもとで新生児，乳幼児の筋肉注射，静脈注射ができる	—	—
4. 指導者のもとで輸液，輸血ができる	—	—
5. 指導者のもとで導尿ができる	—	—
6. 洗腸ができる	—	—
7. 指導者のもとで，注腸，高圧洗腸ができる	—	—
8. 指導者のもとで，胃洗浄ができる	—	—
9. 指導者のもとで，腰椎穿刺ができる	—	—

d. 薬物療法

GIO

小児に用いる薬剤の知識と薬用量の使用法を身につける。

SBO

1. 小児の年齢区別の薬用量を理解し，それに基づいて一般薬剤（抗生物質を含む）を処方できる	—	—
2. 乳幼児に対する薬剤の服用，使用について，看護婦に指示し，親（保護者）を指導できる		

	yes	no
3. 年齢, 疾患等に応じて補液の種類, 量を定めることができる.	—	—
e. 小児の救急		
GIO		
小児に多い救急疾患の基本的知識と手技を身につける.		
SBO		
1. 喘息発作の応急処置ができる	—	—
2. 脱水症の応急処置ができる	—	—
3. 痙攣の応急処置ができる	—	—
4. 鼠径ヘルニアのかんとんの応急処置ができる	—	—
5. 腸重積症を診断し, 注腸造影と整復でき, 不可能のときは速やかに指導医に連絡する	—	—
6. 酸素療法ができる	—	—
7. 人工呼吸, 胸骨圧迫式心マッサージなどの蘇生術が行える	—	—

〔5〕 産婦人科に関する初年度臨床研修目標

a. 産科領域の救急

GIO

正常分娩を含む妊娠, 分娩, 産褥に関連した救急患者を診察し, 専門の産科医に移管する必要性および時機を判断できるとともに, それまでの応急処置を行う技術を身につける.

SBO

1. 産科救急患者または家族などに面接し, 診断に必要な情報を聴取し, 記録できる	—	—
2. 産科的一般診察を行い, その結果を解釈できる	—	—
3. 流早産の応急処置ができる	—	—
4. 正常分娩の介助(会陰側切開を含む)ができる	—	—
5. 分娩直後の新生児の処置ができる	—	—
6. 妊・産・褥婦の出血に対する応急処置ができる	—	—

b. 婦人科領域の救急

GIO

婦人科の救急患者を診察し, 適切な初期診断を行う積極性と能力を獲得し, 専門の婦人科医に移管するまでの応急処置を行う技術を身につける.

SBO

1. 婦人科救急患者または家族などを問診し, 診断に必要な情報を聴取し, 記録できる	—	—
2. 婦人科的一般診察を行い, その結果を解釈できる	—	—
3. 性器出血の応急処置ができる	—	—
4. 腹腔内出血の有無を早急, 正確に判断できる	—	—
5. 骨盤内腫瘍の茎捻転および破裂を他の急性腹症とある程度鑑別し, 緊急手術の必要性を判断し, 専門の婦人科医に送ることができる	—	—